

患者由来「肉腫」モデルの構築

吉松有紀

国立がん研究センター希少がん研究分野

患者由来がんモデルは、がん研究において必須のツールとして長年にわたり使われてきた。しかし、ほとんどの希少がんにおいて患者由来がんモデルは樹立されておらず、そのことが研究や治療法開発の大きな妨げとなっている。この問題に取り組むために、我々は肉腫を対象として多数の患者由来細胞株およびゼノグラフトを樹立し、樹立したモデルを国内外の研究者に無償で配布している。しかし、ひとつの研究室が多種多様な希少がんのすべてに対応することは難しく、多種多様なモデル系すべてを高いレベルで樹立することもできないので、今後は、多施設共同の取り組みが必要である。モデル系がないから希少がんの研究ができず、研究成果がでず、そしてモデル系が作られない、という「希少がん研究の悪循環」を、新しいモデルを樹立することで改善したい。

希少がん研究分野の細胞株がより多くの方に使用していただくため、細胞株は無償で提供している。日本、米国、カナダ、ドイツなどの研究者との交流を通じて、希少がんの研究に貢献していきたい。細胞株の樹立は数十年前に今のようになり、基本原理はさほど進歩していないが、細胞株を用いた研究から得られるものは多く、ゲノム解析やプロテオーム解析そして薬効スクリーニングやバイオインフォマティクスとリンクさせることでいろいろな側面から解析することが可能である。

これからも患者由来がんモデルの樹立を通じて希少がん研究の基盤を充実させ、臨床に還元できる研究に長期的に貢献したいと考えている。